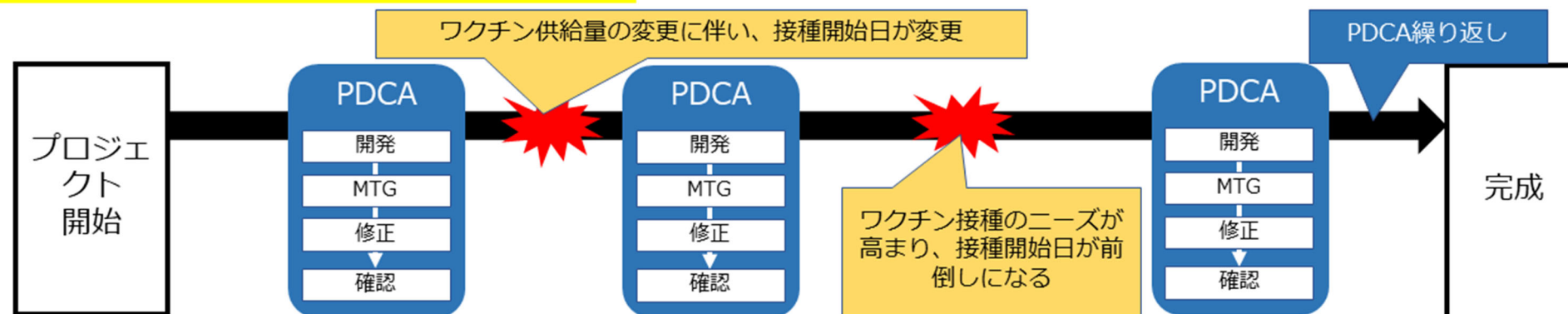


推薦調書（実装部門）

表彰区分	実装部門	推薦都道府県	滋賀県
地方公共団体名	日野町		
取組名称	日野町版デジタル「EBPM」の実現		
連携自治体、企業、団体等	株式会社ソーシャル・エックス		
デジタルを活用した取組の概要 (デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容)	(種類)	②	(左記が①の場合の分野)
	【デジタルを活用した取組の全体概要】 ・「KKO（勘・経験・思い込み）」ではなく、デジタル技術を活用した「エビデンス」に基づいた政策形成・EBPM※プロセスを目指し、開発。 ・デジタル技術（ワクチン予約システム）を用いることで、効果的にフィードバック（予約動向のリアルタイムデータ）を得て、それを元に機動的に施策の変更（システムの修正）に活かす取組み。これにより、住民ニーズに即したスムーズな予約が実現した。 ・日野町と株式会社ソーシャル・エックス（以下、協力企業）共同で、以下のシステムを開発 ○ワクチン接種予約 WEB システム（開発期間：約 1.5 ヶ月） ○ワクチン接種予約 IVR システム（開発期間：約 1.5 ヶ月） ○確定申告相談予約 WEB システム（開発期間：約 1 ヶ月） ※EBPM とは、エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキングの略称。政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化したうえで客観的根拠（エビデンス）に基づくものとし、政策効果の測定に重要な統計等のデータを活用した上で、国民への行政への信頼確保を行うこと。 【実施に至る経緯・動機】 ・エビデンスに基づいた政策形成や住民ニーズに即した対応が難しい現状、ワクチン接種予約が全国的にトラブル続出、スムーズな予約を実現したいという中、協力企業からの提案があり、共同での開発を開始。 ・協力企業からの提案内容は、システム開発やランニングコストの費用を、日野町が負担せずに、町民・役場の双方に寄り添った、ワクチン接種予約システムと一緒に開発したいとの内容であり、開発することに至った。（協力企業は、新規事業への開発投資の一環として、実施） 【解決する課題の具体的内容】 1. 日野町において、新型コロナワクチン接種予約は、役場OB等による電話受付により、年齢ごとに予約開始を区切る形でスタート。概ね順調に進んだが、高齢者以外の予約については、電話予約とともにWEB予約を併用させ、スムーズに行うことが求められたが、他自治体では既存予約システムの不具合や使い勝手の悪さが指摘されていた。 2. 行政職員は住民に寄り添い、デジタル技術で解決できそうな課題は把握		

	している一方、職員が専門的な知識を持たず、日々課題の内容が大きく変容するなかで、従来型の行政側がまず詳細な仕様を決定し、事業者がこれを設計・構築していくという従来型の開発手法では、課題に的確に対応したシステム構築は困難となっていた。 【プロジェクト成功のポイント】 ・技術者と行政職員が、課題認識や最終目標を共有しつつも詳細な仕様を定めることなく、毎週1回定例的にWEB会議を実施し、「作りながら考え」「考えながら作る」という「アジャイル開発」により、変化するワクチン接種の運用要件に迅速に対応。デジタルに不慣れな町民に寄り添ったシステムを、短期間で現場の状況にあわせた予約システムを開発することができた。 ・開発できたワクチン予約システムを町職員の提案により、税務相談予約システムとして転用することとし、これも「アジャイル開発」により実現することが出来た。
デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	1. エビデンスに基づく適切な現状把握と対処、協力企業との連携による「アジャイル開発」により、スムーズな予約環境が実現できた。 2. デジタル一辺倒ではなく、個々に寄り添った受け皿も準備できた。 ■ワクチン接種（第1回目～第3回目） ・WEBシステムでの予約件数：20,875件 ・IVRシステムでの予約件数：1,230件 ■確定申告相談予約 ・WEBシステムでの予約数：83件（従来型の受付と併用）
本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	1 デジタル技術活用による「エビデンスの把握」 HP上で、ワクチンメーターを設置することにより、予約動向のリアルタイムデータの確認が可能になった。 2 協力企業との臨機応変な「アジャイル開発」 週次にてWEBMTGを実施し、「作りながら考え」「考えながら作る」というアジャイル開発により、変化するワクチン接種の運用要件に迅速に対応。短期間で開発することができた。 3 デジタルに慣れない層にも配慮した「デジタルデバイド」対策 「町民にとって、利用しやすいシステムの実現」という目的を共有し、町民から吸い上げた声をもとに、役場側の意見と、協力会社側でのシステム観点の意見の議論・調整を行い、デジタルに不慣れな町民を含め、全ての住民へ対応した柔軟なシステムが完成できた。特に、ワクチン接種では、IVRシステムの活用により、WEBでの申請に不慣れな町民へ電話での自動音声応答対応が実現できた。
今後の展望	・町行政の推進にあたって、特に先行きが不透明な分野については、事前に詳細な計画を定めることのない「アジャイル型」EBPMにより推進する。 （現在、公共交通活性化に向けたプロジェクト全体をこの手法で推進）

取組の概要（アジャイル開発）



- プロジェクト開始時点で、理想とする予約システムのおおまかな「理想像」を共有
- 開発→MTG→修正→確認（修正内容）のPDCAを1週間単位で回し、システムを開発。
- 定例MTGでは、日野町と協力企業の合同で開催。住民の声を日野町が、協力企業へ伝え、開発することにより、エビデンスに基づいた、住民に寄り添ったシステムを完成させることができた。
- プロジェクトを進める中、緊急の課題が生じることもあったが、短い期間でPDCAを回したアジャイル開発を進めたことで、柔軟かつ、迅速に解決することができた。
- 役割と流れ（①→③を繰り返す）
 - ①日々、刻々と変化するワクチン接種を取り巻く状況（接種現場・予約受付の状況、国等の動向など）を協力会社に伝える（町職員）
 - ②定例ミーティングで把握した情報をもとに、システムを次回ミーティングまでに開発（協力企業）
 - ③いったん開発された内容について、**ユーザー目線で確認し、町民、町職員にとって使いやすいかどうかという視点で確認し、修正するべき点を協力会社に伝える（町職員）**
- MTGには、以下の参加者で実施し、プロジェクトが迅速に進む様、実施。
日野町：町長、副町長、総務政策主監、厚生主監、保健センター所長、ワクチン接種担当者、システム担当者
協力企業：（株式会社ソーシャル・エックス）：代表取締役、開発部長、担当部長、担当PM、開発担当者

完成したシステムの特徴

日野町が実施していた高齢者向け電話予約をモデルに設計
EBPMプロセスによる「アジャイル開発」により、「本当に使いやすいシステム」を実現

●ワクチン接種予約システムにおける工夫したポイント

- ・協力企業によるコールセンターの視察を実施。町で実施していた電話予約（職員OBが対応）の状況をふまえて設計。
- ・1回目の予約と2回目の予約を必ずセットで予約することで効率化をはかるシステムを構築。
（他事例では1回目の予約はとれたが、2回目は取れないといったことが発生していたことを受け）
- ・WEB予約ができない方向けに、電話で簡単に予約できる仕組みを構築。IVR上でのプッシュボタンでの操作による接種券番号、生年月日の入力のみで個人認証できることを可能にした。
- ・代理予約、家族単位など複数人の予約などが多かったことに鑑み、システム上で可能な形を実現。
- ・「とにかく早く予約したい」という例が多かったことから、直近予約をレコメンドする形にした。
- ・入力項目を出来るだけ減らして、システムでの滞在時間を短くし、システムがパンクしないようにした。
- ・ワクチンメーターによる情報発信と連動。ワクチン供給量や接種状況をみながら、予約コントロールが出来る仕組みを構築。
- ・電話・WEBの相互利用できる様、WEBシステムと連携。WEB/IVRにて同時予約した場合、同じ枠を取り合わないよう、WEB/IVRのどちらでも、確認・キャンセルが可能なシステムを構築。

●税務相談システムのポイント

ワクチン接種予約システムの特徴を活かし、用途を変えて二次利用で実現。
朝から順番待ちの列が続いていたことを解消するため、システムでの予約を可能。町職員の提案と協力企業の協力により、システムを開発。順番待ちの列の解消、住民へのスムーズな案内が実現できた。

ワクチンメーター



予約動向のリアルタイムなデータの確認が可能になった。

新型コロナウイルス感染症 ワクチン接種状況について（日野町ワクチンメーター）

[2022年6月16日]

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます

シェア

ツイート

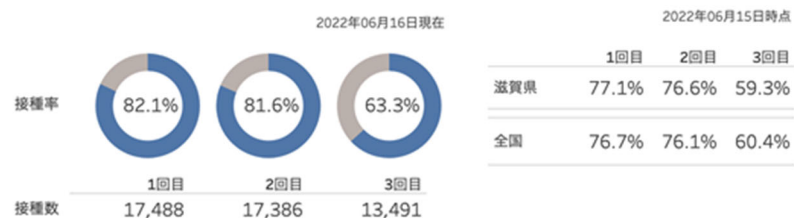
日野町ワクチンメーター

滋賀県・全国の接種状況はデジタル庁のオープンデータを用いているため、更新タイミングは同時ではありません。
【接種数】 ワクチン接種記録システム（VRS）に記録、集計されたデータ。VRSのデータは過去の接種日の件数が遅れて増加することがあります。
【接種率】 2021年1月1日現在の人口を用いています。年代別では、年齢が不明なものは計上していません。

接種実施状況の概要

日野町の接種状況（全体）

（参考）滋賀県・全国の状況



集団接種会場での接種状況

集団接種会場における3回目（追加）接種は、2022年5月22日（日）をもって終了いたしました。



日次



今後の展望（日野町の地域公共交通活性化にむけて）

○公共交通活性化の必要性○

- ・利用者の減少とともに便数の削減 → 本数が少ないから利用しない（できない）という悪循環
- ・一方で交通をめぐる課題は山積
通勤マイカーによる交通渋滞、危険な通勤自転車の国道走行、2キロ以上の徒歩通学、
小学校1年生からの自転車通学、「家族タクシー」（家族による送迎）の負担

- ・日野町が「住んでみたい、住み続けたいまち」となるために・・・
「忘れられていた」公共交通を再び活性化させることが必要

潜在的な公共交通への需要を掘り起こし、それを満たす交通体系へ・・・エビデンスに基づく構築

「わたむき自動車」プロジェクト

人口流動等実態調査の実施→潜在ニーズの把握と実証実験の実施→持続可能な公共交通へエビデンスに基づく再編

実証実験

工業団地への通勤バス運行、まちなかバスの小型化・本数倍増（運転手養成のしくみ構築）、小学校スクールバス充実、オンデマンド交通の導入（高齢者等の移動手段確保だけでなく、日野駅や公民館事業への送迎、保育所送迎、飲食店送迎も）

目指す姿

若い人も高齢者も親子連れも来訪者も・・・
だれもが利用しやすい公共交通を、みんなが利用しているまち、日野町

公共交通で安全に通勤・通学できるまち、公共交通でどこへも気軽に出かけられるまち、公共交通で来訪・観光できるまち、いつでも公共交通で安心して帰宅できるまち、交通ターミナルの日野駅を交流・にぎわい拠点とするまち